

運用先市場の状況

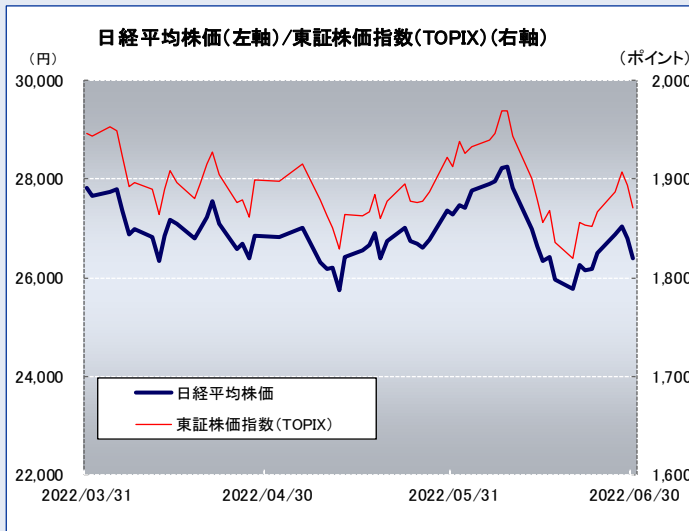
国内株式市場および国内債券市場 2022年4月~6月

作成基準日 2022年6月30日

○国内市場

・株式市場

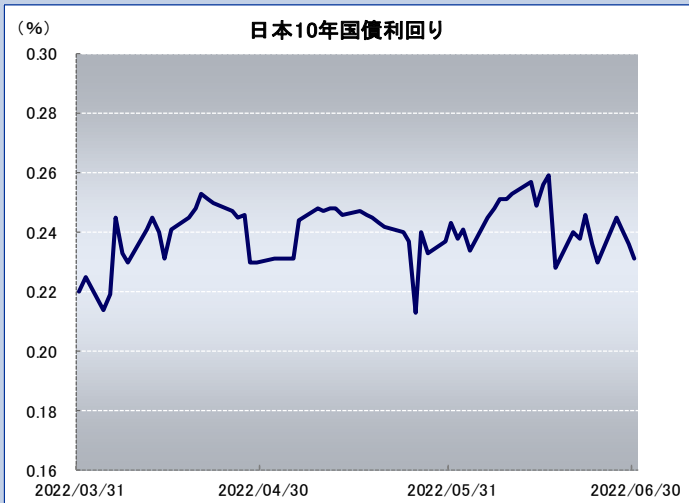
4~6月を通して見ると、国内株式市場は下落しました。
 4月、株式市場は下落しました。中国で都市封鎖に伴い景気減速懸念が高まったほか、米国で金融引き締め懸念が高まったこともあり、軟調な展開となりました。
 5月、株式市場は上昇しました。月前半は、米国で0.5%の利上げと保有資産圧縮の決定により世界的にも金融引き締めへの警戒感が高まり、軟調に推移しました。しかしその後は、上海で都市封鎖解除の方針が示されたことや国内で外国人旅行者受け入れ再開が発表されたことで経済活動再開への期待が高まり、上昇しました。
 6月、株式市場は下落しました。月初は、米ドル高・円安などから堅調な展開となりました。しかしその後は、インフレ懸念や欧米各国での相次ぐ利上げを嫌気し、世界的に株式が急落しました。月末にかけては、原油価格の下落やインフレに対する投資家の過度な懸念が後退して値を戻しました。



(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

4~6月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は小幅に上昇(債券価格は下落)しました。
 4月、長期金利は、ほぼ横ばいとなりました。欧米金利の上昇基調や、急速な円安進行に伴う国内でのインフレへの警戒などから、長期金利は日銀の許容変動幅の上限まで上昇しました。これに対し、日銀が10年国債の買入れオペレーションを連日実施し、緩和政策の維持も決定したことから、長期金利は低下しました。
 5月、長期金利は、小幅上昇しました。米国で利上げが決定されたほか、ECB(欧州中央銀行)高官からもインフレ抑制を重視する発言も相次いだことから、欧米金利の上昇基調が続き、国内金利も上昇しました。
 6月、長期金利は、ほぼ横ばいとなりました。欧米の中央銀行がインフレ抑制姿勢を強めたことで欧米の金利が一段と上昇し、国内金利にも上昇圧力がかかりました。ただし、日銀が国債買入れオペの増額や拡充による金利抑制姿勢を強めたことや、金融緩和政策を維持したことにより、金利上昇は抑えられました。



(出所) Bloomberg データを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

運用先市場の状況

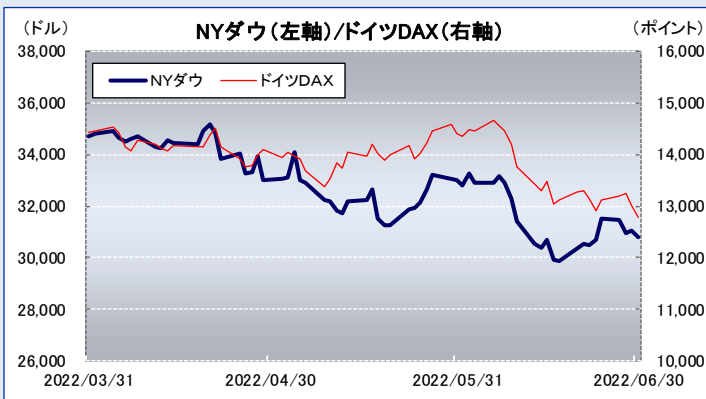
外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2022年4月~6月

作成基準日 2022年6月30日

○外国市場

・株式市場

4~6月を通して見ると、欧米の株式市場は下落しました。
 4月、米国株式市場は下落しました。物価の上振れ、金利上昇、利上げによる景気や企業収益への影響を嫌気して下落しました。
 5月、米国株式市場は前月末比ほぼ変わらずとなりました。月初に0.5%の利上げが決定され、景気後退懸念などから下落基調が続きました。ただし、長期金利の上昇一服を手がかりに値ごろ感から買戻しが入ったことなどから、株式市場は上昇しました。
 6月、米国株式市場は、下落しました。雇用や物価の統計が強く、インフレ警戒などから下落しました。中旬には、0.75%の利上げが決定されてインフレへの警戒感が和らぎ、上昇しました。
 欧州市場も、下落しました。ロシアのウクライナ侵攻が長期化する中、ECBが7月に利上げを実施する方針などを示し、株式市場は下落しました。また、英国やスイスでは利上げが実施されました。

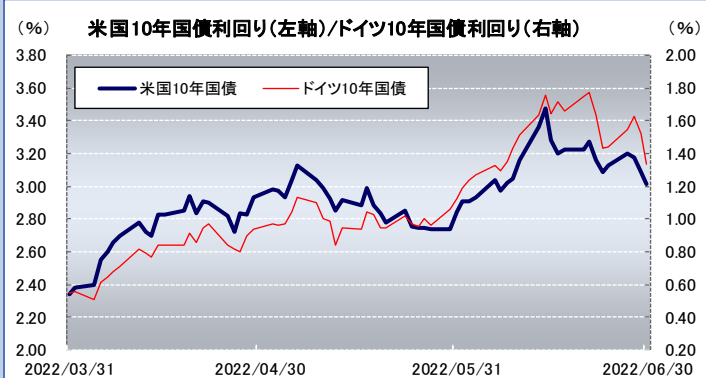


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



・債券市場

4~6月を通して見ると、欧米の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。
 4月、米国では長期金利が上昇しました。インフレ鎮静化に向けて、早期に大幅な利上げが進められるとの警戒感が強まりました。
 5月、米国の長期金利は低下しました。中旬に0.5%の利上げが決定され、金利は上昇しました。しかし、その後は急速な引き締め観測を背景に景気減速懸念が台頭し、金利は低下しました。
 6月、米国の長期金利は上昇しました。インフレ指標の上振れを受け、利上げ幅拡大が急速に意識されて金利が上昇しました。中旬には、0.75%利上げが決定されました。
 ユーロ圏でも、長期金利は上昇しました。米金利の上昇や、ECBが7月から利上げを開始する方針を明示したことを受け、金利は上昇しました。

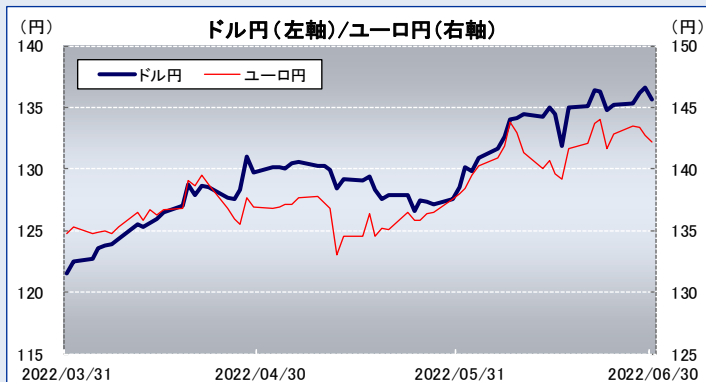


(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



○為替市場

4~6月を通して見ると、米ドル、ユーロ共に対円で上昇しました。
 4月、日米の金利差拡大を背景に、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、ECBによる早期利上げ観測とロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー供給不安などから、一進一退となりました。
 5月、米ドル/円は、米国の急速な金融引き締めによる景気減速への懸念から米ドル高が一巡し、小幅な米ドル安・円高となりました。ユーロ/円は、ECB高官による利上げに前向きな発言などから、小幅にユーロ高・円安となりました。
 6月、米ドル/円は、米国で0.75%の利上げが実施され、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、ECBは7月から利上げ開始の意向を示し、金融引き締め姿勢を積極化した一方で、日銀は金融緩和政策を継続したことから、ユーロ高・円安となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。